

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

### 【評価実施概要】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホーム あがの		
所在地 (電話番号)	田川郡福知町上野 2 6 7 8 - 1 (電 話)0947 - 28 - 6650		
評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町 4 - 6 北九州ビル 8 階		
訪問調査日	平成21年7月3日	評価確定日	平成21年8月3日

### 【情報提供票より】(平成21年6月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15.7 人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	(光熱費)12,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日1000円			

#### (4) 利用者の概要( 6 月 10 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83,5 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人上野病院 医療法人すみれクリニック(歯科)
---------	---------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

後方にそびえる福知山系の山々と、その麓にある広大なホームの敷地が連なるかのような、豊かな自然環境の中に「グループホームあがの」は位置している。医療法人上野病院を母体としたこの事業所は、施設長の「自由に思いのままに生活できる場所を作りたい」という思いから設立されている。開設5年目を迎え、経験豊かな職員の存在が生活支援、また医療・福祉の連携に大きく貢献しており、365日・24時間安心して暮らせる場所となるよう日々の支援に臨んでいる。地域との連携についても、一方的な支援ではなく、入居者・職員が地域住民の一員として溶け込み、地域に根ざした活動に取り組んでおり、信頼関係が構築されている。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	事業所の広報・啓発活動として「あがの便り」を毎月発行し、病院外来などに置いている。地域の方々に興味を持って貰えるよう、行事案内や介護保険・福祉についての課題をわかりやすく掲載している。災害対策や市町村との連携強化にも、質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員全員で検討しており、日々の支援に対する振り返りの機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	状況報告・年間行事計画・災害対策・グループホーム協議会の報告・地域行事の案内など、多彩な内容で開催されている。入居者・家族・町福祉課課長・老人会会長等の参加にて、活発な意見交換がなされており、有意義な開催となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見箱・苦情相談窓口の設置を行っている。運営推進会議の中でも、入居者・家族の要望を聴き、運営に反映させるよう努めている。今後は家族会を設け、更に協力や親睦を図っていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近所には入居者が立ち寄れるお宅が数件あり、急な訪問にも対応してくれる。事業所の夏祭りやクリスマス会には、多くの地域住民の来訪があり、また老人会や敬老会に参加している。小学校との活発な交流があり、事業所行事への来訪や小学校運動会への参加等、入居者の楽しみとなっており、笑顔につながっている。ボランティアの来訪も多い。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	平成18年にグループホームが地域密着型サービスとして位置づけられたことにより、生きることを支援します。(本人のできること、できる可能性があることを考えていきます) 家族や地域社会との関係の継続を大切にします。 私達も地域住民の一員として地域に溶け込み、その役割を果たします。という理念が職員全員で創られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は事務室や食堂などに掲示している。設立時からの運営理念である「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」とともに、実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との付き合い					
3	5	地域とのつきあい	近所には入居者が立ち寄れるお宅が数件あり、急な訪問にも対応してくれる。事業所の夏祭りやクリスマス会には、多くの地域住民の来訪があり、また老人会や敬老会に参加している。小学校との活発な交流があり、行事や運動会への参加や見学が行なわれている。ボランティアの来訪も多い。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価については職員全員で検討しており、日々の支援に対する振り返りの機会となっている。事業所の広報・啓発活動として「あがのだより」を毎月発行し、病院外来などに置いている。地域の方々に興味を持って貰えるよう、行事案内や介護保険・福祉についての課題をわかりやすく掲載している。災害対策や市町村との連携強化にも、質の向上に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	状況報告・年間行事計画・災害対策・グループホーム協議会の報告・地域行事の案内など、多彩な内容で開催されている。入居者・家族・町福祉課課長・老人会会長等の参加にて、活発な意見交換がなされており、有意義な開催となっている。議事録の整備がされている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市町村担当者の協力や助言を得て、福地町グループホーム協議会の発足に繋がっている。事業所の運営についても、スプリンクラー設置の助成についてや法的手続きの助言を受け、サービスの向上に活かされている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見制度を活用している入居者がおり、その支援の過程の中での体験が大きな学習の機会となっている。今後は職員だけでなく、家族にも啓発活動ができるように、学習を深めていきたいと考えている。		権利擁護に関する制度について、職員全体の理解を育み、必要時に家族や地域への情報提供等が行えるよう、学習の機会の確保への取り組みに期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	あがのだより・金銭出納報告とともに、入居者の写真を添えた担当職員の報告を送付している。職員の異動がある場合は家族に説明し、新人スタッフを紹介するように心がけている。家族の来訪も多く、その際には近況報告を行い、安心に繋がるよう努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱・苦情相談窓口の設置を行っている。運営推進会議の中でも、入居者・家族の要望を聴き、運営に反映させるよう努めている。今後は家族会を設け、協力や親睦を図っていききたいと考えている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	長期に勤務している職員も多く、事業所全体として馴染みの関係づくりに努めており、安定した介護を継続して提供できる体制がある。やむを得ず離職等が発生した場合にも、引継ぎ期間に充分配慮し、また職員間の協力によりサービスの質の低下とならぬよう努力している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用については、年齢や性別についての制限はしておらず、「やる気のある人」を採用している。職員の能力が発揮でき、また自己努力と管理者等の適切な指導により、人権尊重に繋がると考えており、日頃より実践している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の「尊厳ある生活の維持」は生活支援の基本であり、採用時の倫理教育や、日々の関わりの中で常に念頭において取り組むよう指導している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新任職員に対しては、管理者や経験豊かな職員との話し合いによる現場指導が適切に行われている。研修参加についても可能な限り、勤務調整や費用等への支援を行っている。		職員の経験や能力に合わせた、教育体制の必要性の認識をされており、職員も意欲的である。年間計画の中での研修実施への取り組みに期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	昨年より福地町グループホーム協議会を発足し、相互訪問や職員交流が行われている。現在管理者が会長を務めており、月一回の会議を行い活動内容の検討や交流が行われている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	病院や施設からの入居希望が多く、本人・家族との話し合いを重ね、見学や体験入居を通じて安心して入居できるように工夫しながら支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	行事の餅つき（杵つき）の際など、入居者が主導権を握り、上手に職員を仕切りながら餅をもむ姿がある。漢字の得意な方から職員が教わることもある。お互いが思いやりの気持ちを持って支えあい、年長者である入居者から学びながら、日々過ごしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用してアセスメントをしており、生活歴などの把握に努めている。本人との関わりや会話を大切に、家族からも情報を得ながら、意向の把握に努めている。コミュニケーションが困難な場合は、動作や表情などから本人本位に分析している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	身体面・精神面のアセスメントとともに、センター方式を参考にしながら生活面のアセスメントも重視している。本人・家族の意向を大切に、職員全員の意見を参考にしながら、個別・具体的な介護計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3か月に1回のモニタリングを行っている。状況の変化を把握するためにも、日々の記録とともに担当者の「焦点情報」の記録も参考にし、少しの変化も見逃さないように努めている。身体、精神的に変化があった時にはその都度変更を行い、観察項目を増減・変更して対応している。モニタリングは状況変化が理解しやすいものとなっている		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	グループホームの特性を活かし、本人・家族の希望に沿うよう、買い物・通院・外出などに柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	施設長は老年精神医学学会の専門医でもあり、入居者との常日頃の関わり(行事・食事会等)の中で一人ひとりの様子を把握し、また馴染みの関係が構築されている。本人・家族の意向を大切にしながら、24時間、適切な医療が継続して受けられる環境にあり、本人・家族の安心にもつながっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	母体病院との連携、かかりつけ医や主治医、看護職や介護職の連携体制が整えられている。本人の意向を大切に、家族やかかりつけ医との話し合いを重ねながら、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	ファイルなどの個人情報は取り扱いを十分に注意しており、すべて事務所で管理している。身体介護時、また日常の会話の場面でも、誇りやプライドに配慮した支援に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	その人のもともとの暮らしを考え、希望に沿うように支援している。昼食後に自宅まで散歩に歩かれる方、ずっと笛を吹いている方、庭で日向ぼっこをされる方など、個々のペースを大切に、職員は安全面に配慮しながら温かく支援している。入居者の来訪者に対する、生き生きとした対応が印象的であった。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人で食事したい方、和式テーブルで食べたい方など、柔軟に支援している。調理は職員が当番制で行い、入居者とともに食事を楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	体調とタイミングを考慮しながら、希望に沿うように柔軟に対応している。ゆっくりと入浴を楽しめるようにと、入浴日は朝から対応できるように準備している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	個別の楽しみごとを大切に支援している。笛を趣味にしている方、文章を書くことが好きな方、運営推進会議に代表として出席する方、洗濯物の整理や掃除の手伝いをする方など、一人ひとりの能力を発揮できる生活が、日常的に行えるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	広い敷地内の散歩やベンチでの雑談など、外気に触れるよう支援している。希望に沿った買い物支援や、自宅までの散歩などにも個別に対応している。今年は日帰り旅行を計画している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は施錠はしておらず、鳥の鳴き声のセンサーが設置されている。敷地面積が広く、派出所の指導もあって防犯のために門の施錠は時間を決めて行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回消防訓練を行っている。スプリンクラーも設置に向けて具体的に計画中である。昨年は母体病院との消防連携体制を検討し、整備されている。地域の方からも援助協力の申し入れがあり、協力体制が整えられている。昨年落雷事故があり、地域の方が心配して駆け付けてくれている		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材・献立については外部業者に委託しており、管理栄養士による栄養バランスに配慮された献立をもとに、職員が個々の状況に応じた調理の工夫を行っている。水分摂取については一日1000mlの確保を支援している。記録し、職員間で共有している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	天然木の香り・漆喰調の壁が、落ち着いた雰囲気を醸し出している。扉を開け放つと大広間となり、広い廊下と合わせると開放感あふれる空間となる。清潔感に十分に配慮がなされ、季節感のあるさりげない飾りつけや花は、家族からも好感を得ている。居間には炬燵やソファが配置され、思い思いの場所で、のんびり過ごせるよう配慮されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	ベット・テーブル・椅子・布団などが備え付けられている。本人・家族の希望により、馴染みの家具についても持ち込みが可能となっており、安心して、また自分の部屋として居心地良く過ごしてほしいと考えている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			